

山形県立博物館 友の会会報

第2号(通巻10号)2010年10月31日発行
山形県立博物館友の会
発行責任者 中川 重
事務局 〒990-0826 山形市霞城町1-8
山形県立博物館内
Tel 023-645-1111 Fax 023-645-1112

第2回共同企画展「私の宝物」のご案内

—わたしが大事にしてきた“たから”—

開催の目的

友の会会員と県立博物館が所有する「宝物」を展示し、個々人がもっている「もの」に対する愛着と認識をふかめる機会とするともに、広範な生涯学習の場として、県民に親しまれる博物館をめざすことを目的としています。

期 間

2010年12月18日(土)～2011年2月13日(日)

展示構成

- 第一部 わが家の“たから”
- 第二部 わたしの“たから”
- 第三部 博物館の“たから”
- 第四部 博物館の写真パネル／懐かしいやまがた冬の年中行事

出展件数(予定数)

30件／出展数50点(他に写真パネル20点)

出展資料(概要)

「林霞峰(二代目?)文人画」／「白寿坊・琴和坊俳句」／「土屋竹雨書掛軸」／「周文筆人物絵画」
／「東玉斎筆天袋絵」／『象鳥記行』／『高嶋流間見禄』／「羽黒山と神仏分離絵図」／「寛永の検
地帳」／マタギ資料『山立根本巻』・「マタギツペラ」・「椀」・「火打石入れ」・「もの入れに付けた根
付」・「ワツパ」／「砂鉢」／「木硯(もっけん)」／「着発弾伝授書」／「戸沢藩拝領木盃」／「ガス灯」
／「籠灯」／「手書小倉百人一首」／「お歯黒」／「箸置」／「ThinkPad220 パソコン通信用ポケット
モデムソフトウェア・マニュアル類」／「米沢市空代遺跡出土土器・石器」／「ロケット戦闘機“秋水”
の模型」・「山形の航空写真(日本飛行機工場敷地がわかるもの)」
「ブルーノ・タウト作品」／「籠桶(こおけ)」／「万国人物図」など

解説会・講演会(予定)

- 12月18日(土) 午後1時30分～2時 ミニ解説会
- 1月 8日(土) 午後1時30分～2時 ミニ解説会
- 2月2日(土) 午後1時30分～2時 ミニ解説会
- 2月 5日(土) 午後1時30分～2時 ミニ解説会
- 1月13日(日) 午後1時30分～2時 講演会

◇展示資料紹介

1 『象鳥記行』に描かれた挿絵から

広く全国に知られている鳥の海、象潟をまだ訪ねていない仲間五人、多田扇右衛門、大熊藤之允、相良勝之助、松平善治、石原源助の五士たちが、嘉永5年（1852）の夏、鶴岡城下を出立する。難儀しながらもついに鳥海山の「絶頂ニ観世音の石像立給へる峯ニ至る。」途中で面白おかしい体験もふくめ、文章と挿絵で綴っている。道中書写は相良勝之助。彼の筆者名は「龍鱗」とある。

「石源が持酒 山伏眼ヲ返ス」

石原源助が持参した酒は、酒に焼酎を混ぜたアルコール度数が強力なもので、普段酒を飲まない山伏が眼を回すのも当然のことであった。



「飛鳥権現社 二王門ノ図」

酒田市平田町にある飛鳥神社、慈覚大師作と称された仁王像が描かれているが、取り壊されてものか今は見る事ができない。



「舁田の柴橋 諸人はい渡りの図」

雨で増水している日光川に架けてある柴橋を、恐る恐る這いながら渡っている様子。遠近描画に達者な絵心の持ち主である。

2 『ブルーノ=タウト（1880-1938）作品』

昭和8年（1933）、積雪地方農山漁村の経済更正計画および経済に関する雪害防除の調査研究指導を目的とし、山形県新庄町（現新庄市）に、農林省積雪地方農村経済調査所（雪害調査所）が設けられた。この資料は、タウトの試作品が東京日本橋の高島屋に展示された折、雪害調査所が、農村工業指導所（昭和13年雪害調査所内に設立）の農村工業に関わる標本（副業参考品）として買い求めたものである。

タウトは、ドイツの建築家であり、昭和8年ナチスの迫害をのがれて来日し、同11年（1936）日本を離れるまで、商工省（現経済産業省）工芸指導所嘱託などとして、建築や生活文化の指導にあたった。3年余の滞在の中、日本を旅しながら日本の美を再発見するとともに、竹、和紙、漆など日本の素材を生かしたモダンな作品を作っている。

なお、雪害調査所は、全国はもとより海外（朝鮮半島など）の製品を収集している。



博物館の企画展

企画展「縄文のキセキ—半世紀の時を越えて—」について

本館秋の企画展として「縄文のキセキ」展が開催中である。会期は10月9日（土）～12月5日（日）までで、本館2階第3展示室で行われている。

国の考古資料相互活用促進事業の実施に向けて、昨年度夏から奈良国立博物館と協議を進めてきた。その中で奈良国立博物館からの貸出資料として登場したのが本県遊佐町杉沢土偶1点である。この土偶は、1953（S28）年に発見され、昭和30年に国庫に帰属して以来、県内では初めての公開展示となり50数年ぶりの里帰りとなる。土偶は、縄文晩期半ばのもので、縄文晩期前葉に流布した遮光器土偶の末裔である。遮光器系土偶と呼ばれ、頭部のVの字の結髪、肩や腰が横に張り、そこに雲形文（くもがたもん）と呼ばれる文様がめぐる。中身が空洞の中空土偶で、ヘソのところに孔が開けられている。頭部の結髪部が欠けているが、ほぼ完形の土偶である。

展示室中央に上記で紹介した「杉沢土偶」と昨年度大英博物館に出展した「西ノ前土偶」、そして本県で遮光器土偶の完形品がないことから参考展示として岩手県の「豊岡土偶」を展示している。この3点は、今展示会の中心展示品となっている。

その他、県内4地域（置賜、村山、最上、庄内）出土の縄文後半期の偶像（土偶、土製品、土器）や祭りに使用された道具、装飾品、石器や土器などを展示している。

今後の記念講演会は、11月6日（土）に文化庁文化財部美術学芸課の原田昌幸氏による「The Development and Diversity of “DOGU”土偶の発生と成長、そして“かたち”の変化」と題して、特に西ノ前土偶に関連しての講演をいただく。また、展示解説会が、10月31日（日）、11月27日（土）の2回行われる。講演会、展示解説会とも午後1時30分から開始される。

今回の展示会は、奈良国立博物館との考古資料相互活用促進事業として行われ、芸術文化振興基金の助成を受けて行われるものである。



縄文のキセキ展ポスター
（中央は杉沢土偶）



縄文ヴィーナス3Dクリスタルオブジェ

博物館へ行こう！！

山形県立博物館では、展示会の他にも、様々な教育普及活動・イベントが企画されています。これからの行事予定をカレンダー順にお知らせします。ご家族やお友達と一緒に参加されてみてはいかがでしょうか。

☆展示会予定☆

2010年10月9日（土）～12月5日（日）企画展「縄文のキセキ-半世紀の時を越えて-」

2010年12月18日（土）～2011年2月13日（日）

共同企画展「私の宝物-わたしが大事にしてきた“たから”-」

2011年2月26日（土）～5月8日（日）企画展「うつくしい鉱物や岩石」

☆行事予定☆ **すべて13時30分開始・事前申込不要**

11月6日（土）企画展「縄文のキセキ」記念講演会「The Development and Diversity of “DOGU” 土偶の発生と成長、そして“かたち”の変化」

11月20日（土）考古学講座②「トチの実加工場のむら（寒河江市高瀬山遺跡）」

11月27日（土）企画展「縄文のキセキ」展示解説会③

12月18日（土）考古学講座③「日本屈指の大規模縄文むら（寒河江市西海淵遺跡）」

1月15日（土）考古学講座④「北東北との交流の拠点むら（村山市川口遺跡）」

1月29日（土）考古学講座⑤「県内最大級の複式炉を持つむら（鮭川村小反遺跡）」

12月4日（土）館長・学芸員講座④

「山形県の縄文時代後期の土偶-企画展をとおして-」

12月11日（土）館長・学芸員講座⑤「化学をめぐるおもしろ雑話」

12月25日（土）館長・学芸員講座⑥「お茶と天目茶碗～日中お茶事情～」

2月27日（日）企画展「うつくしい鉱物や岩石」展示解説会①

3月6日（日）企画展「うつくしい鉱物や岩石」展示解説会②

※ 共同企画展「私の宝物」のミニ解説会、第3回友の会講演会の詳しい内容については後日お知らせします。

※ 都合により変更となる場合があります。最新情報は博物館のホームページで
ご確認ください。 ホームページアドレス <http://www.yamagata-museum.jp/>

事務局より

多くの来館者からミュージアムグッズを作ってほしいとの要望を受けておりましたが、この度、ついに友の会オリジナルミュージアムグッズの取り扱いを始めました。「山形県立博物館ポストカードセット（5枚組）」「縄文ヴィーナス3Dクリスタルオブジェ」「縄文ヴィーナス 3Dクリスタルキーホルダー」の3種類です。県立博物館の入館券売場で取り扱っていますので、博物館に立ち寄った際に、まずは見本の品をご覧ください。親しい方へのプレゼントや、博物館見学の思い出としてお手元に置いていただければさいわいです。

また、展示会の図録もこれまでと同様に取り扱いしています。今年は「三島通庸と洋風学舎-近代やまがたの学校-」「縄文のキセキ-半世紀の時を越えて-」を刊行していますが、共同企画展「私の宝物」の小冊子も刊行予定ですので、あわせてご覧いただければと思います。 <ka>